

目次/編集方針

トップメッセージ

グループ概要

ニコンのCSR

事業を通じた
社会への貢献環境問題
への対応

CSRの基盤強化

企業市民活動

データ集ほか

>トップメッセージ

ニコングループ一丸となって 持続的な価値創造と社会への貢献をめざします

代表取締役 兼 社長執行役員 兼 CEO
CSR委員会委員長

馬立稔和



2019年6月に代表取締役 兼 社長執行役員 兼 CEOに就任しました馬立稔和です。日頃よりニコングループの活動にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

中期経営計画と中期CSR計画

ニコングループはコア技術である「光利用技術」と「精密技術」をベースに、世界中の人々の感動を捉えるカメラや、産業の基盤となる半導体・フラットパネルディスプレイ用の露光装置、顕微鏡などを提供し、お客様の期待や社会のニーズに応え成長してきました。

2016年11月に、収益性と企業体質の改善を目的とした構造改革に2019年3月まで取り組むことを公表しましたが、グループをあげてさまざまな施策を進め、所期の目的を達成することができました。

今後は、2019年5月に発表した中期経営計画に基づき、持続的な企業価値向上のために既存事業の収益力強化を図りつつ、これまで培った技術や社外とのパートナーシップをさらに深め幅広く活用することにより、材料加工事業などの新たな収益の柱となる新事業の立ち上げに邁進していきます。

そうした事業展開を中心とした中期経営計画とともに、事業とCSRを統合して経営課題として捉え、方針や目標を明確化して着実に歩みを進めていくため、2019年5月に中期CSR計画を策定しました。

今後はふたつの中期計画を通して、ニコングループが保有・関連する多様な資本を効果的に活かし、SDGsを中心とした社会課題を解決しながら、社会価値、企業価値を継続的に創造するサステナビリティ戦略の構築に取り組みます。

サステナビリティと企業

社会の持続や発展なくして企業の成長、存続がないことは明らかであり、気候変動や人権問題、SDGsなどサステナビリティへの対応は、差し迫った課題となっています。従って、企業がしっかりとそれらの課題を受け止め、実効ある計画を立案・実施して、社会に貢献しつつ会社を成長させていくという信念のもと、経営に取り組んでまいります。

当社は2000年に「信頼と創造」という企業理念を制定し、現在も継承しています。この企業理念を追求していくことは、上記のサステナビリティに対する私の信念と同じ

目次/編集方針

トップメッセージ

グループ概要

ニコンのCSR

事業を通じた
社会への貢献環境問題
への対応

CSRの基盤強化

企業市民活動

データ集ほか

[>トップメッセージ](#)

ものであり、ニコングループにとって変わることはない経営の根幹です。

サステナビリティの課題の中でも特に気候変動対策のように今後数十年という長期間にわたる取り組みが求められるものについては、社会動向の的確な把握と、変化への対応を考慮し、それぞれの課題について必要なアクションを早期に計画・準備しておくことが経営者の責務といえます。2018年11月に賛同を表明したTCFD(The FSB Task Force on Climate-related Financial Disclosure)、2019年3月にコミットしたSBT(Science Based Target)の設定等については、こうした姿勢でしっかりしたプロセスと検討に基づいて対応します。

ニコングループの取り組み

新たに制定した中期CSR計画は、CSR重点課題【▶CSRにおける重点課題(P13)】に即して立案しています。

ニコングループでは、CSR重点課題を「事業を通じた社会への貢献」「環境問題への対応」「CSRの基盤強化」の3領域に分け、それらの中に11の課題を設定しています。それぞれの課題に対して、各部門は全社目標に基づいて自らの目標を展開し、ニコングループ全体でその達成に取り組めます。

「事業を通じた社会への貢献」については、当社が培ってきた技術を、既存事業以外にも、人々の健康や産業・科学の発展などに広く活かしていくことを主にめざしています。一例として2019年4月に受注を開始した光加工機

「Lasermeister 100A」は、ニコン独自の金属加工機で、レーザーによりさまざまな金属を高精度で容易に加工することができます。コンパクトなサイズ、段取り不要のシンプルな操作性と相まって従来の金属加工の「大きい」「高価」「操作が複雑」といったイメージを払拭し、新たな市場を生み出していく製品です。社外との積極的なパートナーシップを開発の初期段階から拡充し、新たな分野への取り組みやイノベーションを推進していきます。

「環境問題への対応」については、2016年に策定した「環境長期ビジョン」に基づき、低炭素化や資源循環を推進していきます。中でも先に述べたTCFDやSBTは重要な課題として取り組みます。

「CSRの基盤強化」については、ガバナンス、コンプライアンス、サプライチェーン、多様な従業員の活躍推進、人権尊重といったサステナビリティの根幹となる課題に対して、社内外での対話を重ねながら一つひとつ着実に改善を図っていきます。

中でもサステナブルなサプライチェーンの構築については、「ニコンCSR調達基準」のもと、調達パートナーの状況把握や課題の改善支援に取り組んできました。引き続き2019年4月に制定した「ニコン人権方針」に基づき、サプライチェーンの人権リスクの洗い出しも積極的に進めてまいります。

また、多様な従業員が働きやすく、効率的に成果を出し、やりがいを実感できるよう、勤務制度をはじめとした人事面での対応も進めていきます。

なお、当社は環境問題やCSRの基盤強化に対する取り

組みを推進するため、2018年5月にRBA(Responsible Business Alliance)に加入しました。加入後はRBAが保有するツールや加盟企業とのパートナーシップを活用し、自らの事業所および調達パートナーがRBA行動規範を一層遵守できるよう取り組んでいます。

グループ一丸となって取り組むために

さまざまな職場で働く従業員一人ひとりが、サステナビリティを身近に捉え、自らの仕事において課題を発見し、グループ方針に沿って解決・改善してこそ、サステナビリティ戦略が大きく実を結びます。

ニコングループでは、これまでCSR委員会を核としてさまざまなCSR活動を推進してきました。その結果、サステナビリティの重要性に対する認識や委員会で決定した方針が徐々に組織に浸透してきたことを実感しています。

今後はそれらをさらに確かなものとするため、組織風土の改革やそのための仕組みづくりに注力し、ニコングループ一丸となってサステナビリティ戦略に取り組めます。私もさまざまな機会を捉えてサステナビリティについて従業員に発信し、意見交換していきます。また、各職場で階層を超えた良好で良質なコミュニケーションを確立して課題意識を共有し、事業とCSRの統合を進め、事業を通じて社会に貢献していることを一人ひとりが実感できる施策を進めます。

これからのニコングループにご期待いただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。